

におさえて、練習するよう心がけた。以上は個人の考えて、一年全体の考えてはいないことを、ここに述べておく。今一番望む事は部員があと一年生二人ぐらいほしいということである。



先 非車

⊗
⊙
氏

先輩とは奇妙なもので、弱い時には薄情なようだが、一旦強くなりかけると、戦も盛況となり、アドヴァイスも親切に多くなつていくのを見ると、必ずしもそうとはばかりは云えぬらしい。僕も現役時代には、汗水たらして（冬には鼻水をすりながら）先輩のなげるボールでキャッチの練習をさせられた。僕達のころは、総合プレーよりも基本プレーの練習が非常に多かったせいとか、どの先輩が来られても、同じようにしんどかった。

幸い二年の中頃から連勝記録を作ったりして、その度毎に練習はひどくなり、先輩も教を増していったように思う。先日作られたクラブ名簿を見ると、僕達がしぼられた事のない先輩はほとんど見当らない。合宿と云えば、先輩と現役とがほぼ同数泊つたということも記憶にある。現在では社会の老木となつた橋本老人もその頃は合宿といえは、超高校級のダツジュターンを、百本ノックを、と先頭に立っておられた。中学校時代には何もやっていなかった僕がよくその頃たえられたものだ。今さらながら感心する。

入学後初練習は山中氏のコーチがたつた。その翌日だったか、中江氏が修学旅行より帰って来られて、一緒にやつたが、小さいのに、どなりちらされた腹を立ててみたが、後でやむを得ないとさとりされた。西さんの足に、腰にあとろがされたのもあぼえてゐる。

一年の夏には、丸山・津田・山中・広田・橋本氏等、名前をきいただけで身のひきしまるような人のゴリ子だった。津田さんの集中パスでし

